

## 金沢21世紀美術館 開館5周年記念シンポジウム ミュージアム・エデュケーション21

21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa 5th anniversary  
Symposium

# Museum Education 21

2010.1.16 sat - 17 sun

金沢21世紀美術館は、今年10月で開館5周年を迎えました。

当館は開館以来、子どもから大人まで様々な対象に向けた教育普及プログラムを展開しています。現代美術を収集、展示する美術館として、現代における芸術活動のあり方とともに考え、価値を創造するプログラムの開発を目指しています。特に美術館のミッションステートメントのひとつとして「子どもたちとともに、成長する美術館」を標榜し、未来の文化を創り出す子どもたちに、芸術・文化の開かれた教室として「見て」「触れて」「体感できる」最適の環境を提供してきました。

具体的には、金沢市内の小学4年生を学校ごとに招待し、ボランティアと一緒にコレクション展を鑑賞する「ミュージアム・クルーズ」や、アーティスト、学校、美術館が協同してプログラムを開発する「まるびい アートスクール」、「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」と題して若者がアーティストとの芸術活動を通して成長する、独自の長期プロジェクト型展覧会などを実施しています。

金沢21世紀美術館では開館5周年を記念して、開館以来これまで取り組んできた教育普及活動を総括し、21世紀の「美術館教育の可能性」を展望するシンポジウム「ミュージアム・エデュケーション21」を開催いたします。この催しの告知・広報をお願いするとともに、当日ぜひご取材いただき、開館以来当館が取り組んできた教育普及活動の実績、当日の様態などを報道していただければ幸いです。

日時	2010年1月16日(土) 13:00~18:30 シンポジウム 「美術館教育の現在」 17日(日) 10:30~15:00 トークセッション 「鑑賞教育の現場から」		
会場	金沢21世紀美術館 シアター21		
料金	無料	定員	各日 150名(事前申込不要)
ゲスト	アン＝ソフィ・ノーリング(ストックホルム近代美術館副館長) 岡部あおみ(武蔵野美術大学教授) ヴァンサン・プスゥ(ポンピドゥー・センター国立近代美術館) ステファニー・エロー(MAC/VAL(ヴァル＝ド＝マルヌ現代美術館)) 齋正弘(宮城県美術館) 藤吉祐子(国立国際美術館) 長田謙一(首都大学東京教授) 石川誠(京都教育大学教授) 西澤明(金沢大学附属中学校教諭)		
主催	金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]	共催	金沢市教育委員会

本資料に関する  
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 広報担当: 落合 事業担当: 平林、木村  
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1  
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802  
http://www.kanazawa21.jp  
E-mail: press@kanazawa21.jp



金沢21世紀美術館 開館5周年記念シンポジウム  
ミュージアム・エデュケーション21

## 趣旨

金沢21世紀美術館では、開館5周年を記念して、美術館教育を考えるシンポジウム「ミュージアム・エデュケーション21」を開催いたします。

本シンポジウムでは、当館が開館以来取り組んできた教育普及活動を総括し、21世紀の「美術館教育の可能性」を展望するほか、先進的な活動で注目を集めている国内外の美術館の事例発表や学校教育と社会教育が交差する現場の事例発表を通じて、鑑賞教育のあり方を具体的に提案します。

## 1月16日(土) シンポジウム「美術館教育の現在」

13:00～18:30 会場:金沢21世紀美術館 シアター21

<開場12:30>

13:00～13:20 ・はじめに:浅香久美子(金沢市教育委員会教育長)  
・主催者メッセージ「社会と向き合う美術館」:秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)

13:30～15:00 ・基調講演「21世紀の市民社会と美術館の役割」:  
アン＝ソフィ・ノーリング(ストックホルム近代美術館副館長)

15:30～18:30 ・トークセッション  
モデレーター:岡部あおみ(武蔵野美術大学教授)  
パネラー :ヴァンサン・プスゥ(ポンピドゥー・センター国立近代美術館)  
ステファニー・エロー(MAC/VAL(ヴァル＝ド＝マルヌ現代美術館))  
齋正弘(宮城県美術館)  
藤吉祐子(国立国際美術館)  
不動美里(金沢21世紀美術館)

・事例発表「金沢21世紀美術館の教育普及プログラム」:  
平林恵、木村健、吉備久美子、鍛冶裕子(金沢21世紀美術館)

## 1月17日(日) トークセッション「鑑賞教育の現場から」

10:30～15:00 会場:金沢21世紀美術館 シアター21

<開場10:00>

10:30～11:30 ・講演1「これからの美術館の使命」:長田謙一(首都大学東京教授)

13:00～15:00 ・講演2「art概念の拡がり」と鑑賞 ―鑑賞教育の量的展開と質的保障―:  
石川誠(京都教育大学教授)  
・事例発表1「美術館連携の取り組みについて」:西澤明(金沢大学附属中学校教諭)  
・事例発表2《PIKA PIKA PROJECT in KANAZAWA》:  
木村健、黒澤浩美(金沢21世紀美術館)

★シンポジウムに先がけて、学校連携プログラムを公開しています。取材・視察ご希望の方は事前にご連絡ください。

### 1月15日(金) 公開授業「学校連携プログラム」

13:30～15:30 会場:金沢21世紀美術館 レクチャーホール、シアター21

金沢大学附属中学校《PIKA PIKA PROJECT in KANAZAWA》鑑賞プログラム

金沢大学附属中学の生徒が、トーチカによる作品《PIKA PIKA PROJECT in KANAZAWA》を鑑賞、体験します。  
美術館がこれまで取り組んできた教育普及プログラムの実例のひとつとして、ご取材下さい。

金沢21世紀美術館 開館5周年記念シンポジウム  
ミュージアム・エデュケーション21

## 出演者プロフィール (出演順)

### アン＝ソフィ・ノーリング (Ann-Sofi Noring)

ストックホルム近代美術館副館長兼主任学芸員

1955年生まれ。スウェーデンで教育を受けた後、米国とフランスにてそれぞれ1年間語学と美術を学ぶ。1980年、ウプサラ大学にて美術と文学の学位を取得し、以降近現代美術に取り組む。1980-86年、ソルナ(ストックホルム北部)で2つのコミュニティギャラリーを運営し、市の美術品購入と美術教育の責任者を務めた。1991年までスウェーデンの巡回展覧会の学芸員として北欧諸国の巡回展を手掛ける。さらに国立公共美術協議会コミュニケーション部長としてオープン・スペースにおける美術に関する本の執筆・編集、セミナーや展覧会の企画に従事。2001年、ストックホルム近代美術館教育企画部長に就任、その後展覧会と収蔵作品の責任者となり、3年前より美術・教育部長。美術館で展覧会を担当した作家にアンドレア・ジッテル、アドリアン・パーチ、カルロス・ケーブラン、カリン・ママ・アンダーソンらがいる。現在はエド・ルシェ、エヴァ・ロフダールやエイヤ＝リーサ・アハティラとともに将来のプロジェクトに取り組んでいる。

### 岡部 あおみ (おかべ あおみ)

武蔵野美術大学芸術文化学科教授

東京都生まれ。国際基督教大学卒業、パリ・ソルボンヌ大学修士課程、ルーヴル学院第三課程修了。1999年より現職。現代アートの批評と都市論、美術史的な視野を踏まえた芸術と表現の考察、展覧会の企画の新たな方法、美術館やNPOやアーティスト・イン・レジデンスなどのありかたを国際的な視野において研究しており、アートと社会の関係をより豊かな方向へと広げてゆく実践活動を手がける。世界各地で急増しているビエンナーレやトリエンナーレという国際展についての研究の一方、アーティスト、ギャラリスト、学芸員、コレクター、メセナ、NPOなどアートにかかわる人々と対話を行うとともに、国際展のシンポジウムなどを通して得られた「実践知」を可能なかぎり公開し、社会に浸透させる試みを続けている。Webサイト「Culture Power」を運営。

### ヴァンサン・プスウ (Vincent Poussou)

ボンピドー・センター国立近代美術館教育普及・パブリック局長

1961年生まれ。経営学の学位を取得し、当初から文化中心の広報活動を専門とする。在ペルー・フランス大使館の文化交流担当副官、フランス文化省のコンサルタント、アーンスト・アンド・ヤング会計監査法人のパートナーシップ・マネージャーを歴任。1992年、ベルナル・チュミがパリに21世紀のための都市公園として設計した「ラ・ヴィレット公園」に、プロジェクト最終段階より携わり、来館者サービス部長を皮切りにコミュニケーション・公共サービス局長を務め、1994年から2004年まで、この独特な文化型公園の観客動員に尽力した。2005年より現職。開館30年を経たこのセンターで、現代の創造的作品がより広く観客を動員できるよう新たな発展を目指す。ワークショップの教育的構想に参画し、特に思春期の青年たちのためにプログラムを開発拡大している。

### ステファニー・エロー (Stéphanie Airaud)

MAC/VAL 来館者担当部教育普及担当

パリ・ソルボンヌ第4大学美術史学部で学位を取得。現代美術専門研究課程で、1950年から70年のフランスにおける美術市場と作家、美術批評の関係を研究。専門課程Master2Proコースで「現代美術の理解と実践」についてセルジュ・ルモワヌ氏(元オルセー美術館長)に師事。

ストラスブールの現代美術館に主任学芸員として勤務後、アヌシー美術館にて現代美術部門の作品収蔵担当を2年間務め、都市空間、アルプスの風景やサヴォア地方を再生させることを主眼とした作品の公共受注、現代作家によるアーティスト・イン・レジデンスなどのプロジェクトを進める。2005年11月に開館したヴァル・ド・マルヌ現代美術館(MAC/VAL)にて教育普及と若者向けの活動を担当。これからの美術館像を提示するような活動や、今後美術館を利用するようになる未来の来館者向けの活動を行っている。

金沢21世紀美術館 開館5周年記念シンポジウム  
ミュージアム・エデュケーション21

---

---

齋 正弘（さい まさひろ）

宮城県美術館教育普及部教育担当学芸員

1951年、宮城県生まれ。1974年、哲学者林竹二が学長だった頃の宮城教育大学美術専攻科卒。卒業後アメリカ合衆国ニューヨーク市ブルックリン美術館付属美術学校に留学、非具象彫刻を学ぶ。滞米中同行したカミサンと、立ち会いで長女を出産。こうした経験から、社会や、コミュニケーションや、教育など、基本的な社会形成を巡る人間としての基礎的な概念を形成した。帰国後、時間をおかず1978年から宮城県美術館建設準備に関わり、開館前から公立美術館での教育普及活動実践について相談を受ける。1981年開館より宮城県美術館普及部（現在教育普及部）教育担当学芸員。以来ほぼ30年、展覧会には係わらず、公共の美術館における教育普及活動に専念して研究実践を続ける。当初より、いわゆるワークショップと呼ばれる方法で教育実践を行い、個人を基本に置いた考え方の美術館教育活動を具体的に試行錯誤して、今日に至る。

---

藤吉 祐子（ふじよし ゆうこ）

国立国際美術館学芸課教育普及室研究員

大阪府生まれ。津田塾大学学芸学部卒業後、翻訳会社勤務を経て、渡仏。マルセイユ芸術学院/ISARTで芸術文化コミュニケーションを学ぶ。マルセイユ子ども美術館、パリ市立近代美術館、ポンピドゥー・センターにて研修後、NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]を経て、2004年より現職。作品や美術館と鑑賞者の橋渡しをするべく、美術館で「体験できること」「ふれられるもの」「感じられること」にこだわりながら、主に小中学生を対象として、「こどもびじゅつあー」などの鑑賞プログラムや『ジュニア・セルフガイド』などの鑑賞ツールを企画する。

---

長田 謙一（ながた けんいち）

首都大学東京システムデザイン学部教授

1948年生まれ。東京藝術大学大学院修了。千葉大学教育学部芸術学教授を経て、2006年4月より現職。日独等比較を踏まえ、近現代の美術・デザインのシステムにかかわる諸問題（美術館、美術教育、バウハウス、日本民芸運動、原田直次郎、萬鉄五郎、等）を研究。公立中学校を夏休みだけ現代美術館にした「IZUMIWAKU プロジェクト」（1994、1996年）、千葉県佐倉市立美術館の教育普及プログラム「体感する美術」（1997-99年）、「さようなら代官山同潤会アパート・展覧会とシンポジウム」等に参画。千葉大学の学生と住民とアーティストとの協働プロジェクト「アートプロジェクト検見川送信所」、それにさらに美術館等との共同を加えた「千葉アートネットワーク・プロジェクト」を主宰し地域社会と大学の新しい関係づくりに取り組む。編著書『戦争と表象／美術20世紀以後』、共編著『街から美術館へ／美術館から街へ』『芸術遊び』など著書、論文を多数手がける。

---

石川 誠（いしかわ まこと）

京都教育大学教育学部教授

1973年、東京学芸大学大学院教育学研究科修了。美術教育（鑑賞教育論）。美術・博物館の知的財産を活用し、生涯を見通した鑑賞教育の構築を目指す。2003-05年（財）大原美術館・京都国立近代美術館・東京国立近代美術館と地域の学校による鑑賞実践プログラム『美術を身近なものにするために』、2006年 カレル大学（プラハ）と共同でルドルフィヌム・ギャラリー特別展Shomei Tomatsu- Skin of the Nationの鑑賞プログラム開発。2007年、同大学招聘講義。2008年、32nd InSEA世界大会2008（大阪）の企画「鑑賞教育と美術館教育」のシンポジウムとセミナーをコーディネート。著書『講座現代の教育15 新しい感性の育成』（雄山閣）ほか、論文に「美術鑑賞における鑑賞者の論理とは」『京都国立近代美術館研究論集CROSS SECTIONS』2、「ニューヨーク近代美術館のティーチャーズ・ガイド-美術館が提供する教師支援プログラムにみる学校とのかかわり-」『美術教育学』26ほか。